

手仕事の時代

江州

栗太郡大路井
和泉屋製
川村重蔵



所

京油小路通
扇屋久兵衛
五条下ル丁

民俗資料のルーツ

文字からたどる



請合

湖西滋賀郡
大勘
本堅田村



請合

作新
庄

平成 29 年 10 月 14 日(土)～平成 29 年 11 月 26 日(日)

栗東歴史民俗博物館

栗東市小野 223-8 TEL077-554-2733/FAX077-554-2755

<http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/>

ごあいさつ

栗東歴史民俗博物館には、およそ 3,000 件余りの民俗資料(民具)が収蔵されています。民具は衣食住、人間が生活するなかでつかわれてきた道具類です。そうした道具のなかにはいつ、だれがどこで購入、または作製したものか、あるいはだれが所有するものか、といった文字情報が記されたものがあります。

その文字情報をたどっていくと、栗東や草津、守山など近隣の地域はもちろん、遠く京都などで作られたという民具のルーツを知ることができます。近隣から購入された民具は購入者のこまごましたニーズに対応可能であったり、栗東の気候や地質を知り尽くした職人が作っているなどの魅力があったようです。一方で京都など遠方からやってきた民具は、わざわざ遠くへ出向いてまでも欲しいと思わせる魅力があったのでしょう。

今回の展覧会では、こうした文字情報を手がかりに、今は博物館に収蔵され、静に出番を待つ民具が、いったいどこで、だれの手によって作られ、栗東へやってきたのかを明らかにします。

この展覧会が、身の回りの道具が手仕事によって作られていた時代のくらしぶりを振り返り、当時の職人たちの工夫や、道具にかけた思いに思いをはせていただく機会となることを願います。

2017年10月14日
栗東歴史民俗博物館

凡例

1. この展示解説シートは栗東歴史民俗博物館が主催し、2017年10月日(土)～11月26日(日)を会期とする『手仕事の時代～文字から探る民俗資料のルーツ～』に際して作成しました。
2. 展示解説シートの解説、編集は本館学芸員大西稔子が行いました。
3. 期間中の11月4日(土)に講演会を開催します。
講演会「古文書、農具からみた滋賀県内の農具屋」
講師 大塚 活美さん(京都府立京都学・歴史館 専門幹)

なお展覧会開催にあたっては次の方々のご協力を賜りました。記して感謝いたします。

大塚活美さん 山本順也さん 和田光生さん 滋賀県県民生活課県民情報室 平成29年度栗東歴史民俗博物館博物館実習生のみなさん

参考文献

- 『民具を科学する 明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具』(琵琶湖博物館 2012年)
関啓司「近江八幡の竜骨車」(『民俗文化』175号 1978年4月)
芳井敬郎「竜骨車・踏車研究」(『生産技術と物質文化』吉川弘文館 1993年)
行俊勉「竜骨車-かんがい用具の流通と使用」(『野洲町立歴史民俗資料館研究紀要』第9号 野洲町立歴史民俗博物館 2002年)
大塚活美「滋賀県東部地域の農具の生産と流通」(『京都文化博物館研究紀要 朱雀』第8集 京都文化博物館研究紀要 1995年)
井出努「滋賀県野洲郡域における唐箕の変遷」(『野洲町立歴史民俗資料館研究紀要』第10号 野洲町立歴史民俗博物館 2003年)
神奈川大学日本常民文化研究所『神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 明治農具絵図・関連文書郡の全国調査』(神奈川大学日本常民文化研究所 2015年)
藤森寛志「ヌカトーツワについて」(『栗東歴史民俗博物館紀要』第10号 栗東歴史民俗博物館 2004年)

民俗資料に記される文字情報の見かた

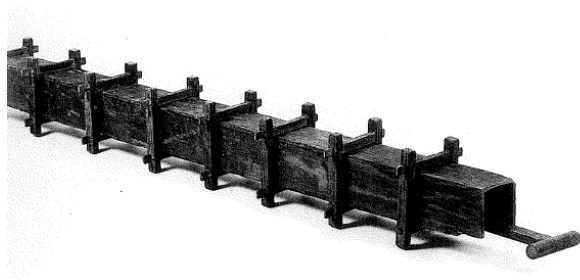
民俗資料に記される文字情報は、大きくわけて所有者の情報と製造者の情報の2種類に分類できます。所有者、製造者の情報には、それぞれの居所や、入手、あるいは製造した年代などが含まれます。特殊なものとしては、度量衡の道具には、検査を受けたことを証明する文字情報が記されることがあります。

情報の記し方は大きく分けて、墨書、焼印、印字の3種類に分類できます。

所有者が記されている場合、それは道具の所有権を明確にするという目的があります。また、入手(購入)した年代や、場合によってはその理由なども記されることもあります。所有者を特定する情報として、居所を記していることもあります。概ね墨書で記されていることが多いですが、消耗品や、そもそも文字を記す場所が狭いものなどは、所有者をあらわす焼印が押されることもあります。

一方、製造者が記される場合は、製造者の名前(屋号)のほか、製造者の居所(製造場所)が記されていることが一般的です。製造場所が記されるのは宣伝や、受注増などを目的にしているのでしょう。ときには宣伝文句がともに記されていることもあります。

所有者情報



左は墨書で記された所有者の情報。右は焼印で記された所有者の情報。墨書で記される場合は取得年月日などが詳細に記されることが多くあります。



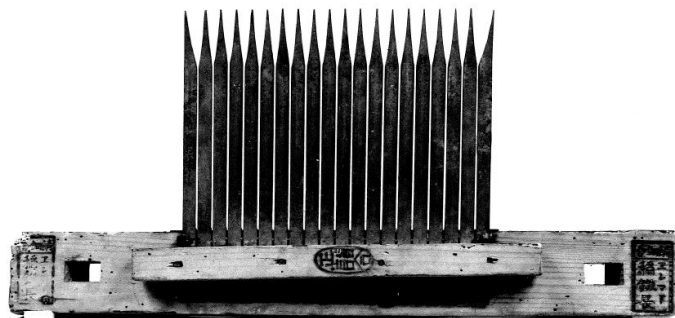
このスッポンとよばれる、揚水器には「明治十八年八月吉日新調之」「江州栗太郡上砥山村千代清七所持」と記されていて、取得した時期や取得者が分かります。

所有者の情報は焼印で記されることもあります。2~3文字程度で持ち主をあらわす文字の組み合わせなどが用いられます。

製造者情報



製造者を示す焼印。「葉山村／桶文／手原」と刻印されている。桶文は昭和12年から当時の栗太郡葉山村大字手原で営業していた桶屋です。製造者の名前と所在場所が記されています。桶の仕上がりによければ、また同じ職人へ注文を、ということになります。製造者を明らかにしておくことは、次の仕事を得るための宣伝のひとつだといえます。



製造者を記すことが宣伝であることがよりわかるのが、ともに記される売り文句。センバコキ(千歯扱)は稲扱ともよばれ、刈り取った稲から穂先についた籾をとる道具です。沢山並んだ金属製の歯の間に稲を通すことで、籾が落ちる仕組みです。歯の部分は鉄製で、鍛冶の技術がもたらされ、この部分の良し悪しが製品としての能力を左右しました。そのため、製造者とともに墨書で「大極上々鋼請合(とても極上の鋼、間違いなし!)」と、かなり強気の宣伝文句が記されています。

製造者情報の表わされ方

焼印や墨書で表わされる製造者情報。その記され方は、道具によって特徴があります。栗東では水車とよばれている踏車は、円形に羽が並ぶ車部分と、鞞(鞞箱)とよばれる部分に分かれます。踏車はこのうち鞞箱の胴部分と羽部分に製造者情報を表わす焼印が押されます。胴部分は平らな部分が大きくあり、焼印にしても墨書にしても文字情報を記すにはうってつけになっています。

製造者情報が記される道具のひとつに、唐箕があります。こちらは焼印であっても墨書であっても、必ず支柱部分に記されます。唐箕も胴の部分が広く平らになっていますが、館蔵資料の唐箕でこの部分に墨書や焼印が押されているものはありません。ただし、現在まで伝来している江戸時代の唐箕のなかには胴部分に墨書があり、購入年などが記されているものもありますが、やはり焼印が押されているものはほとんどありません。

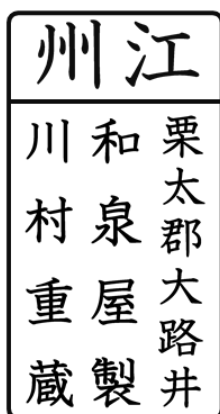
胴部分に記すか、支柱部分に記すか。踏車と唐箕の違いはどこにあるのでしょうか。館蔵資料の踏車と唐箕の胴部分の厚みを一覧にしたのが、下の表です。これを見ると、唐箕の胴部分が薄いのが分かります。焼印は年月を経ると磨耗したり、劣化して薄れることのある墨書に比べると、永続的に文字情報を記すことができるのですが、一方で部材を焼いて印しをつけるため、少なからず押しした箇所を傷つける方法です。こうしたことから、より厚い部材である支柱に押すようになったのではないのでしょうか。



踏車の焼印

水中に入れて使う踏車は円形に羽が並ぶ部分と、鞞(鞞箱)とよばれる部分に分かれます。鞞箱の胴部分には製造者を示す焼印が押されています。

広いスペースが確保されるので、この踏車に押された焼印は縦 8.5 cm、横 10.5 cmと大型です。また鞞箱の部材は唐箕などと比べると分厚く、安心して焼印を押し当てられたのでしよう。



唐箕の焼印

唐箕の焼印は必ず支柱部分に押されています。唐箕の胴部分は薄く、安心して焼印を押し付けられなかったのでしよう。墨書での製造者情報は胴に記されることもあります。

和泉屋の唐箕

当館に寄贈されている唐箕は全部で16台。いずれも近代以降に製造されたものです。そのうちの6台に「和泉屋」という製造者銘が記されています。ただし、すべて同じ和泉屋というわけではありません。館蔵の和泉屋には、大路井(草津市)、田中江(近江八幡市)、新庄の系統があります。

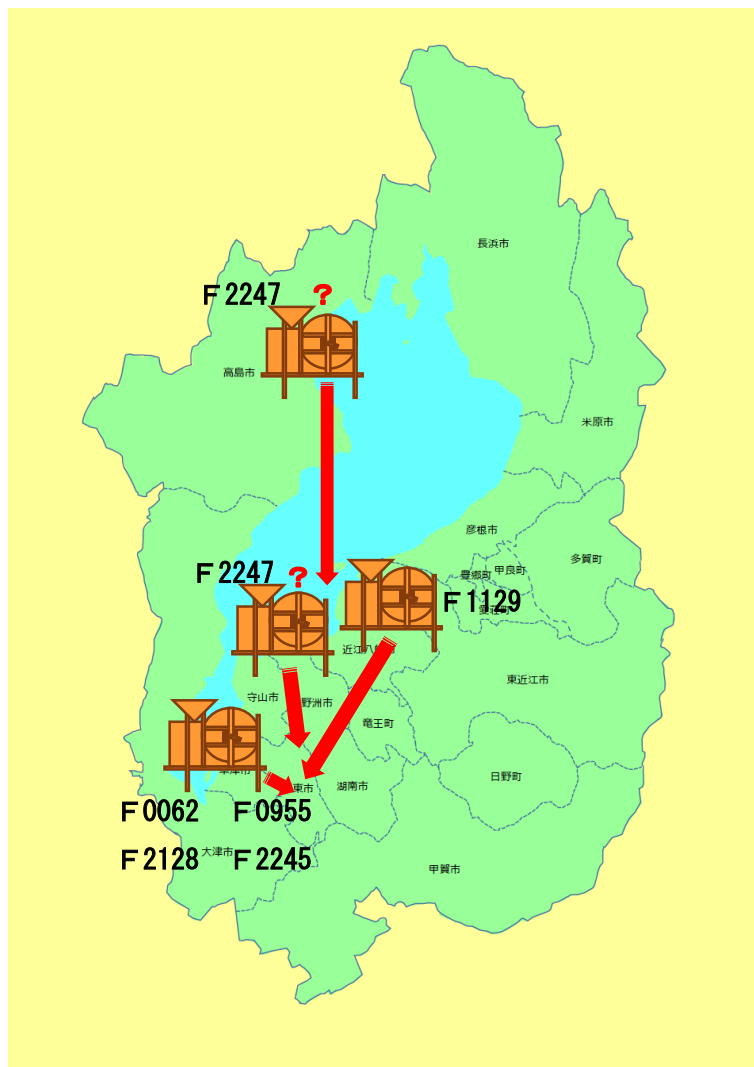
このうち田中江は、江戸時代から農具を盛んに作っていた地域にあたります。田中江の農具は水路から田に水を引く、竜骨車がよく知られていて、水のイメージからか、和泉屋を屋号としている家が数軒ありました。館蔵のいつみや(和泉屋)平兵衛はそのうちの1軒です。

大路井はこの和泉屋平兵衛からの分家で、明治30年代に田中江から大路井に移り住んで、農具を商うようになった家です。和泉屋の銘がある唐箕のうち、最も多いのが大路井の和泉屋で、4件あります。

新庄の和泉屋については詳しいことは分かりません。同じ滋賀県内では旧高島郡新庄村(現在の高島市新庄)、旧野洲郡新庄村(現在の守山市新庄)の2ヶ所があります。おそらくこのどちらかで作られたものでしょう。

では、唐箕はそれぞれの製作地からどのようにして栗東へやってきたのでしょうか。田中江は湖岸にこそ面していませんが、琵琶湖にも近い地域です。しかし水路ではなく、陸路で製品を輸送していたようです。田中江の集落内は、中山道に平行して敷設された朝鮮人街道が通過しており、こうした道路網を活用していたのでしょうか。田中江出身の大路井の和泉屋も、石山あたりまで大八車に載せて陸路で輸送していました。新庄の和泉屋ですが、守山ならば陸路でしょう。高島ならば琵琶湖上を水路で運ばれた可能性もあるでしょう。

さて、館蔵の唐箕は和泉屋以外のものもあります。最も多いのは、野洲郡行畑(野洲市行畑)の白井農具製作所が製造したもので5台あります。白井農具製作所は戦前から唐箕の改良に意欲的に取り組んだ農具メーカーで、戦後は特に唐箕の小型化を進め、それまでの農具屋を駆逐するように栗太郡域で販路を広げました。



民具No.	資料名	文字データ
F 0062	唐箕	墨「本家請合草津大路井和泉屋川村重蔵製造」「改良新式製唐箕」
F 0955	唐箕	墨「本家請合草津町大路井和泉屋川村重蔵製造」
F 1129	唐箕	焼「江州／田中江」「いつみや／平兵衛」
F 2128	唐箕	焼「本家請合」「江州栗太郡大路井和泉屋製 川村重蔵」
F 2245	唐箕	焼「本家請合」「江州栗太郡大路井和泉屋製 川村重蔵」
F 2247	唐箕	焼「請合 作主新庄村」「和泉屋市治郎」墨「明治三十九年九月」

▲当館収蔵の“和泉屋”製の唐箕



▲大路井和泉屋の唐箕(F0062)



▲田中江と大路井の位置関係。田中江は集落内を朝鮮人街道が通り、大路井は東海道と中山道の分岐点に隣接しています。陸路で輸送するのに適した位置取りです。



▲田中江の集落を通る朝鮮人街道。田中江で作られた竜骨車は野洲郡などへはここから陸路輸送されたといえます。栗太郡へも陸路運ばれたのでしょうか。あるいは、隣接する江頭には港があるため、琵琶湖上を運ばれたかもしれません。

▲江頭の集落にある港跡。現在は埋め立てられているが、かつてはここが船溜まりとなっていて、ここから琵琶湖へ水路を通じて物資が運ばれていました。



屋号	所在地
和泉屋 川村平兵衛	蒲生郡田中江村 (現 近江八幡市田中江)
和泉屋 中島与蔵	蒲生郡田中江村 (現 近江八幡市田中江)
和泉屋 松岡治郎右衛門	野洲郡江頭村 (現 近江八幡市江頭)
和泉屋 井狩重治郎	野洲郡江頭村 (現 近江八幡市江頭)
和泉屋 松岡伊蔵	野洲郡十王村 (現 近江八幡市十王町)
和泉屋 竹本由蔵	野洲郡小南村 (現 野洲市小南)

▲複数の和泉屋

関啓司「近江八幡の竜骨車」(『民俗文化』第175号をもとに作製)

▲当館の収蔵資料にはありませんが、田中江の近隣、朝鮮人街道沿いの江頭・十王(近江八幡市)、小南(野洲市)には和泉屋を名乗る農具商が複数いたことが分かっています。和泉屋のなかで、中村与蔵は川村平兵衛の流れをくみ、井狩重治郎、松岡伊蔵、竹本由蔵は松岡治郎右衛門のながれをくんでいました。これらの和泉屋を擁する地域のうち、江頭は特に琵琶湖につながる港を持ち、近世から物資の集積地となっていました。ここを中心にこれらの地域でも活発な経済活動が行われていたことが知られています。



▲唐箕の墨書(F0062)

墨書「本家請合草津大路井和泉屋川村重蔵製造」「改良新式製唐箕」



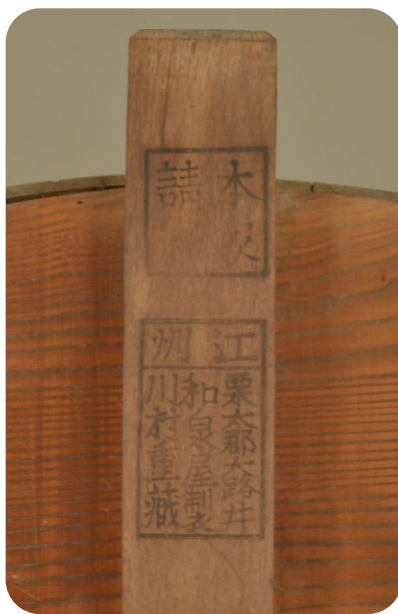
▲唐箕の墨書(F0955)

墨書「本家請合草津町大路井和泉屋川村重蔵製造」



▲唐箕の焼印(F1129)

焼印「江州／田中江」「いつみや／平兵衛」



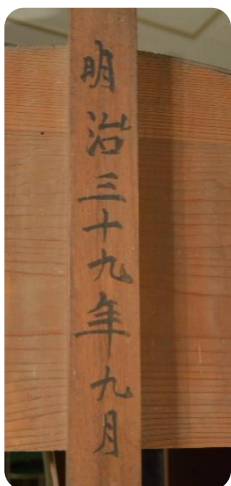
▲唐箕の焼印(F2128)

焼印「本家請合」「江州栗太郡大路井和泉屋製 川村重蔵」



▲唐箕の焼印(F2245)

焼印「本家請合」「江州栗太郡大路井和泉屋製 川村重蔵」



▲唐箕の墨書・焼印(F2247)

焼印「請合 作主新庄村」「和泉屋市治郎」墨書「明治三十九年九月」

半唐箕の文字情報からみる田中江和泉屋の挑戦

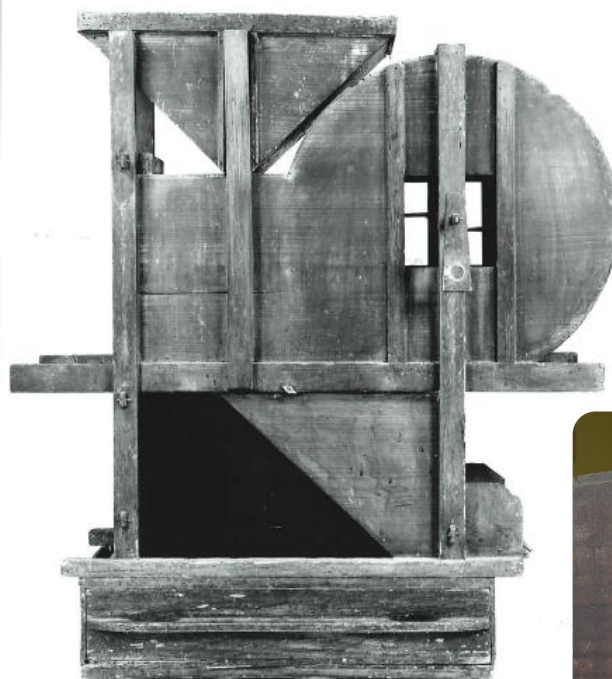
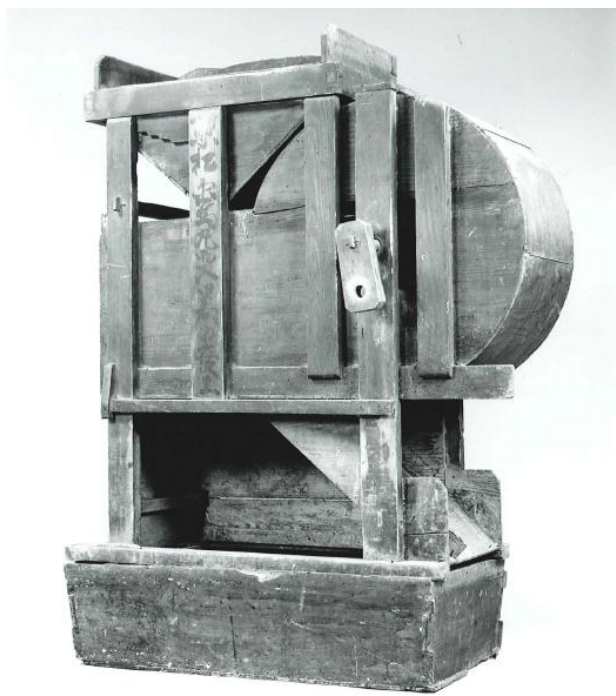
半唐箕は、精米した米と糠を分別する際に用いる道具です。西日本において半唐箕ははじめ大阪農人橋の農具屋、京屋で作られ、そこから地方の農具屋に製造方法が次第に伝播していったと考えられます。

当館では3台の唐箕を収蔵しており、そのうち2台には支柱部分に「京松原烏丸西入美の彦工」と墨書があります。もう1台は支柱に「江州／田中江」「いすみや／平兵衛」の焼印が押されています。

美の彦は、京都の烏丸松原西入ルで営業しており、京都府内はもとより、福井県内でもその作例が確認されています。また、明治11年刊行の『売買ひとり案内』にも紹介されており、半唐箕メーカーとして大手ブランドの地位を確立していました。

。京都からの輸送にかかるコストがかさんだはずの美の彦の半唐箕が当館に2台も収蔵されていることを考えると、栗太郡域を中心とする地域では美の彦一強の時代があったと考えられます。半唐箕は共同利用や大規模農家で利用されるため、需要がそれほど多くなく、製造する農具屋が限られていたことを考えると、栗太郡域では美の彦一強の時代があったと思われます。

この美の彦の商圈に切り込んだのが田中江和泉屋だったのでしょう。明治10年に開催された内国勸業博覧会に自ら作った半唐箕を出品しようとしていることから、この頃にはすでに半唐箕は有力な商品となっていたのでしょう。館蔵品の半唐箕の「いすみや／田中江」の焼印は、努力を惜しまずチャレンジする田中江和泉屋の経営姿勢をあらわしています。そして、この経営姿勢はここから分かれた大路井和泉屋へと引き継がれます。



▲美の彦の半唐箕(F0842)

中央の柱部分に「京松原烏丸西入美の彦工」と墨書がある。明治11年刊行の『売買ひとり案内』は買い物ガイドブックのような刊行物で、美の彦は「篩商松原室町東 長瀬彦三郎」と紹介されている。

▲田中江和泉屋の半唐箕(F1194)

中央の柱部分に「江州／田中江」「いすみや／平兵衛」の焼印がある。田中江和泉屋では明治10年に開催された内国勸業博覧会に、半唐箕のほか複数の農具の出品希望を滋賀県へ提出している。県内の農具屋で出品を希望したのは田中江和泉屋のみで、このことも田中江和泉屋のチャレンジ精神をあらわしているといえる。

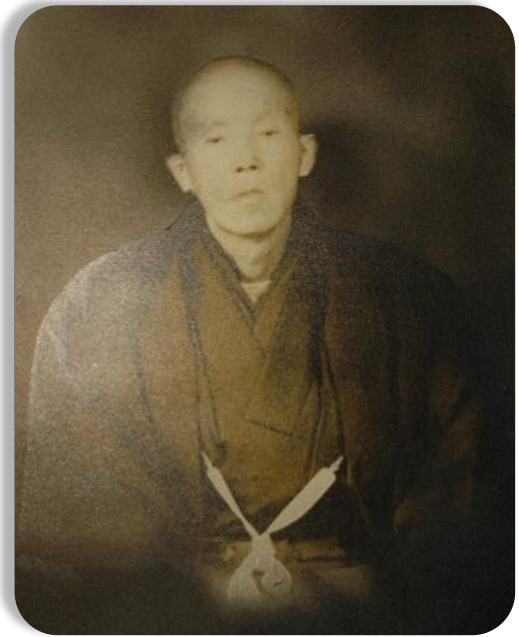
大路井和泉屋 川村重蔵

館蔵品の唐箕で“和泉屋”の文字情報を持つもののうち、最も多いのが大路井和泉屋、川村重蔵が作ったものです。彼は明治9年(1876)に田中江の和泉屋、川村平兵衛の元に生まれました。大路井には明治30年代に移り、店を構えました。東海道と中山道の分岐点がある大路井に拠点を置き、栗太郡域から石山方面までを商圈としていました。

農具作りは父、平兵衛に学びましたが、平兵衛が得意とした竜骨車ではなく、唐箕が主力商品でした。竜骨車が活躍する低湿地が少ない栗太郡では需要が少ないことや、エンジンによる揚水が大正以降に普及していったこともあるからでしょう。

重蔵の作った唐箕は、年代を追って改良がなされていて、顧客の要望に応える姿勢がうかがえます。また、甲賀郡下田村(現在の湖南市下田)が優位に販売していた万石籬の製造販売にも挑戦しており、何事にも挑戦する田中江和泉屋の流れをくんでいることを感じさせます。

昭和17年に重蔵は亡くなり、農具屋の和泉屋は廃業しましたが、現在は店のあった場所にご子息の営業する食堂いずみやが残っています。屋号を引き継いだのは、使い勝手のよい重蔵の唐箕を記憶するかつての顧客が多かったからだといいます。新天地で奮闘した重蔵の姿がしのばれるエピソードです。



▲大路井和泉屋川村重蔵



▲写真上は東海道・中山道の分岐点。大路井和泉屋からは100m余りの距離です。交通の要所に店を構え、広い範囲に商圈を築きました。

写真下は大路井和泉屋の店舗があった場所。現在はご子息が食堂のいずみやを営業されています。重蔵の唐箕が評判であったため、屋号は「いずみや」にしたということです。昭和17年に重蔵はなくなりましたが、孫にあたる現在の経営者にも地域のからから重蔵の唐箕がよかったということが度々聞かれたということです。

手仕事の時代—文字からたどる民俗資料のルーツ— 出品目録

資料名(地域名称)	一般名称	採集地	民俗資料番号	文字情報
菜種籠	菜種籠	栗東市大橋	F0129	墨書「天保十四年酉冬／新調」「油屋磯八所持」「木車針金籠」 焼印「口所／京油小路通／扇屋久兵衛／五条下ル丁」
スッポン	スッポン	栗東市上砥山	F0624	墨書「明治十六年八月吉日新調之」「江州栗太郡上砥山村千代清七所持」
野弁当箱	弁当箱	栗東市小野	F0070	墨書「維時明治廿九丙申歳／七月十二日新調之／栗太郡葉山村大字小野／西村富吉所有野弁当太志」焼印「富」2ヶ所あり
タジ	岡持	栗東市縹	F3689	焼印「ヘソ／西絹」
鎌	鎌	栗東市御園	F2477	焼印「平」2ヶ所
焼印「大太」	焼印	栗東市大橋	F2703	-
半切	半切	栗東市手原	F4441	焼印「葉山村／桶文／手原村」
焼印「栗東町／桶文製造／手原」	焼印	栗東市手原	F4440-71-2	-
スイシャ	踏車	草津市野村	F4502	墨書「明治廿八年／六月／栗太郡」「野村／卯田／金治郎／新調也」「明治廿八年乙未六月下旬是求」 焼印「請合／湖西滋賀郡／大勘／本堅田」
滋賀県歴的文書のうち 内国勸業博覧会出品希望商品図	-	-	滋賀県蔵	-
ヌカトーツワ	半唐箕	栗東市六地蔵	F1994	焼印「江州／田中江」「いつみや／平兵衛」
ヌカトーツワ	半唐箕	栗東市下戸山	F0824	墨書「京松原烏丸西入美の彦工」
トーツワ	唐箕	栗東市縹	F1129	焼印「江州／田中江」「いつみや／平兵衛」
トーツワ	唐箕	栗東市内 葉山学区	F2247	墨書「明治三十九年九月」 焼印「請合 作主新庄村」「和泉屋市治郎」
トーツワ	唐箕	栗東市上砥山	F2128	焼印「本家請合」「江州栗太郡大路井和泉屋製 川村重蔵」
トーツワ	唐箕	栗東市岡	F0955	墨書「本家請合草津町大路井和泉屋川村重蔵製造」
トーツワ	唐箕	栗東市小野	F0062	墨書「本家請合草津大路井和泉屋川村重蔵製造」「改良新式製唐箕」
トーツワ	唐箕	栗東市小野	F2245	焼印「本家請合」「江州栗太郡大路井和泉屋製 川村重蔵」
マンゴク	万石籠	栗東市下戸山	F0900	焼印「本家請合」「江州栗太郡大路井和泉屋製 川村重蔵」
カナゴキ	千齒扱	栗東市 葉山学区	F0228	墨書「大極上々鋼請合 辻村 稲扱屋製」 焼印「辻村／鍛冶清」
カナゴキ	千齒扱	栗東市安養寺	F3262	墨書「大極上々鋼請合 焰魔堂稲扱屋 市村長左衛門作」 焼印「栗太郡・物部村・字焰魔堂／稲扱鍛冶／長左衛門／製作」「鋼請合／エンマド／稲鍛長」
カラスキ	犁	栗東市十里	F1785	型紙印字「横江奥野式秋耕犁」金属製プレート「秋耕用滋賀県特殊犁／野洲郡守山町字横江／本家／奥野犁製作所」
治田	-	草津市野路	F4433	-
茶籠	茶籠	栗東市御園	F0553	焼印「静岡市上桶屋町／川西喜久蔵製」
トーツワ	唐箕	栗東市苅原	F1118	型紙印字「滋賀県指定優良農具」「最新型能率号白井式唐箕」「滋賀県野洲町白石木農具製作工場」

栗東歴史民俗博物館

栗東市小野 223-8 TEL077-554-2733/FAX077-554-2755

<http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/>